SSKA

全国パーキンソン病友の会会報 2003年8月21日発行 通巻 4611号 1971年8月7日第三種郵便物認可 毎月1の日6の日発行 全国パーキンソン病友の会・愛知県支部

愛知県支部だより

11号

長らくお待たせいたしました。9月号をお届けします。

- ★ 1日交遊会が6月4日に無事に終了しました。会員の皆さん、付添の皆さん、 動植物園の担当の方々、ボランテアの皆さん本当にご苦労様でした。この会の 趣旨(種子)が大きく伸びていくように皆で育てていきたいですね。参加記録 を新役員の太田浩子さんにお願いしました。
- ★ 6月8日9日の2日間にわたってパーキンソン病友の会の第27回全国大会が金沢市で開かれました。加藤基雄さんが要点をよくまとめていただきました。 さらに詳しい内容は全国パーキンソン病友の会会報No.92号をお読みください。
- ★ 今年の快挙の1つに「もうパーキンソン病と呼ばないで」の出版だ。評判がいい。ある書店での女主人の話。お客さんが何かいい本はないか。とおっしゃったので紹介してあげましたら、数日してわざわざこの店に立ち寄っていい本を教えてくださってありがとう。感動しました。とのこと。筆者もこの話を聞いて嬉しくなりました。

もくじ

人生いろいろ パート I ---- 愉快な仲間 &

心優しい友人達

人生いろいろ パートⅡ ---

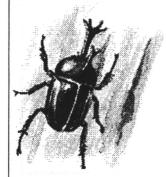
則竹 昌常 14P/原田 みよ子 17P 越澤 英子 20P/大野 志都子 23P 奥田 冨美江 25P/河嶋 徹 27P 坂本 享子 29P/加藤 基雄 31P

活動報告 ------------- 中島・太田・加藤・肥後 32P

福祉 ------ 中島 陽太郎 38P

事務局より ------ 4 1 P

広告



人生いろいろ

丹羽浩介

私の一生の前半はは、抑鬱症状との戦いでした。その時は 大変だったけれども、その後の人生に素晴らしいものを残し ました。私は内なる自分に合うことが出来たのです。

言葉を変えて言えば、自分というものが分かったのです。

マイナス思考で引っ込み思案の私が、今では完璧なプラス思考。何事に対しても積極的で前向き。自分で仕事を作っては毎日を多忙にしています。

人にはそれぞれの人の生き方があります。まねしたからと言って、うまく行くものではありません。とは言え、立派な生き方の心を戴くことは必要です。

私の観察では、発病初期の方、入会直後の方は自分というものがお分かりになっていない方が多いように思います。

然し、パーキンソン病暦何十年のベテランになると、「松阪肉てんまつ記」で紹介 するような方もいます。自分というものがお分かりになっているからこう言うことが 出来るのです。では自分というもが分かるということとは、どういうことでしょうか。



物事を問い詰めて考えることの好きな方はお読み下さい。そうでない方は此 処のところを飛ばして、次にお進み下さい。

- ① 人間の生存の大本は、太陽、地球、月です
- ② 全ての活動は太陽から来る 光と熱が基本です
- ③ この光と熱で地球上の食物連鎖が行われています
- ④ 人間は地球上の食物連鎖のらち外におかれています
- ⑤ 食物連鎖のらち外と言っても 地球上の循環理の中におかれています

さて、ここまでで、そんなこと分かっていると言われる方、あなたは分かっていないのです。あなたは単にこのことを知っているに過ぎません。このようなことは知識としては誰でも知っています。然し、知識として知っているということと体得して分かっているということとは、全然違います。

それは、こんな話ににています。現在では、見合い結婚というスタイルは少ないようですが、その見合い結婚の過程を分析してみます。①写真の交換 ②両親、中人立ち合いの見合いの席 ③交際 ④結納 ⑤結婚式 ⑥家庭生活 ⑦子供の誕生と成長 ⑧やゃ飛ばして老後

あなたが分かっているというのは、相手の写真を見た段階です。結婚して同居 していろいろ問題があって始めて分かったというのです。



さて、自分が分かるということですが、自然の中で、自分の役割を自覚して、 それを受け入れて、そのうえで全力を尽くすという事です。

自然の中の自分の役割と言うことですから、全て含まれます。問題は全てを受け入れるという点にあります。

人間という者は、自分に生まれ備わった(自分に都合の良い)能力、性格は当然自分のもの、自分に都合の悪いところは、厄介なこと、と考えます。

受け入れるということは、全て自分の問題と受け取ることです。これが出来たときに自分が分かったというのです。

それに至る道の一つを例示しましょう。生きるとは、今日なのです。昨日でも無ければ明日でもないのです。今日なのです。今出来ること、今しなければならないこと、これに全力で当たりましょう。(興味のある方には個別にお話します。手紙下さい)

この自分が分かるということについては、古来より問題で先人はいろいろの苦労をして、それを体得して、後世に伝えるべくいろいろの表現をしております。現代的に言えば「あるがままの生活」と言うことでしょうか。

今回は、私の体験したこと、私のところへ来た手紙を中心に、自分が分かっている 人、そのような自覚なしに自分の役割にてっして人生を明るく生きておられる 方、などに登場して貰いました。

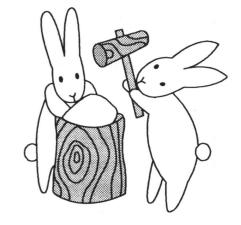


皆それぞれ自分の人生を自分の責任として自覚した生き方を身につけた方、 身につけようと決意した方たちです。

きっと皆様の生活にお役に立ちます。2,3頁はともかく4頁以降心して読んでみて下さい。

名付けて

人生いろいろ



人生いるいる 松阪肉てんまつ記 丹羽浩介

絵文字が入っています お解き下さい

6月も終わりの頃でした。会員の伊藤加津子さんから電話がありました。彼女独特 の語り口調です。「丹羽さんナ 松阪やろ前にナ 松阪肉ナ 友達がいるていってい たやろ」。

詰まり、伊藤さんの頼みというのは、こうです。「自分の誕生日に同じ老人施設にいるグループの人達20人に、一生に一度、松阪肉と言うものを食べさせてやりたい。ついては、以前あなたがこの施設に来たときに、郷里の松阪で同級生が肉屋をしていると話していたから、口を利いて貰えないか」というのです。

予算はと聞いてみると、10 Kg で 5 万円といいます。100 g 当たり 500 円になる勘定です。これではとてもじゃないが松阪肉は買えません。

私は正直に伊藤さんに伝えました。松阪肉の最高級品は単なる食材ではないのです 美術品みたいなものなのでその値段で無理だと。悔しそうな感じで電話が切れました。

7月初頭再び伊藤さんより電話が入りました。声が弾んでいます。「丹羽さんナ予算は10万円にした。量は5 K g でよい」と言います。つまり、100 g 当たり 20 00 円になります。私は伊藤さんの気持ちを聞かなくとも了解出来ます。先ず予算から言えば、年金から諸経費を控除すると毎月彼女の手元に残るのは1 万円そこそこです。10 万円と言えば貯めるのに1 年掛かります。しかもそのお金も施設にあづけてあり、引き出すには申請しなくてはなりません。伊藤さん自身パーキンソン病歴 30 年、車椅子生活、入所 3 年で4 人部屋暮らしもどうやら身についたところです。

それでも日常生活では、同居者たちと話をすることはありません、大抵の人は痴呆が進んでいるからです。伊藤さんが口を利くのは若い職員の人達とだけです。

そんな彼女が考えたのは「自分はパーキンソン病を患っても、幸せだと、ここには 人生を苦悩の中にしか過ごすことの出来なかった人がたくさんいる。一生に一度、夢 を見させてやりたい、贅沢をさせてやりたい」そんな願いが伝わってきます。



☎丹羽 では一度話してみましょう

★伊藤 ほんまやな 今月の27日やで(電話の途中突然相手の声が変わる) お電話変わりました。職員の◆◆です。丹羽さんですね。伊藤さんの誕生日 は22日です。間違いありません。 ★月羽 ダ/??

- ☎丹羽 オーイ。同級生の中村よ。元気かい。ところで、かくかくしかじかで、 最高級品5Kg10万円。 なんとかしてくれ。
- ☎同級生中村 丹羽お前あほか。今品薄でその値段では無理やで。赤肉ではいかんか。
- **四**丹羽 お前がアホか。松阪肉と言ったら、霜降りにきまっとるやろ。そんな赤肉 どうするかい。かくして、@▼▼ @△△ @⊜ \mathbf{O} \mathbf{K}
- るN しゃないやっちゃ。分かった。
 その代わり二度と言ってくるなよな。
- 番丹羽 伊藤さん 肉の件。決まりました。今月の22日届きます。

7月21日午前10時

- ☎丹羽 中村、明日頼むはな。
- ☎中村 丹羽、分かってるで。

☎丹羽 伊藤さん肉の件、明日届きます。

★伊藤 丹羽さん ほんま ほんま 確認して呉れたの わざわざ ホッー。

7月22日午後8時

- ☎丹羽 伊藤さん 済んだかい どうだった。
- □ おま後片付けやっとすんだ。今朝ナ 言ったんやナ そしたらナ 皆んなナ そわそわうきうきしてナ ほんまか ホントに松阪肉食べられるんかって。私ナ 普段のさみしそうな顔がナ ホントに輝いているの見て 良かったわ 食欲のない人 までもっとくれもっとくれって よう食べたわ 口に入れるとナ とろっしてナ 溶 けるようだと言っていたわ またな、出来たらナ 来年もナ
- ☆丹羽 おい、中村よ。おまえな。大変良いことしたわ。おおよろこびやで。肉屋の中村さんは感極まって一言「丹羽、有り難う」。

伊藤さんの最後の言葉が気になります。あなたはひょっとすると、焼き番に徹して肉を一口も口にしなかったのと違いますか。あなたの気質を知っているがゆえに、そのよう思えて仕方ありません。そんなに喜ぶ人がいて、それを支える人がいて。 来年は来年の風が吹きます。来年もまた言い出して下さい。

この話は実話です。本人の了解を得て実名としました。こう言う人生もあるのです。

人生いろいろ

老人施設居住の伊藤加津子さん 松阪肉の中村十四男さん



人生いろいろ

人生いろいろ

七尾市の宮本幸子さんから、こんな手紙を戴きました。人生いろいろ 過去に何があろうとも、今開き直ることが大切です。(原文のまま)

七尾市 宮本幸子

丹羽浩介殿

前略 立派な本を読ませていただき有難うございました。私は喝を入れられたようです。今までP病になって読み漁った本はお医者さんの書かれたものばかりでした。

患者さん御自身が書かれた本は初めてです。分かりやすく 読みやすい内容で 貴殿 の前向きの生き方に感動しました。私は平成11年9月にP病と告知されました。

義母がその年の5月から9月までの毎朝6時から7時まで痴呆のような事をいうのをボケさせてはいけないと思い 話を聞いてあいずちをうっていたのです。日がたつにつれて 毎日同じことの繰り返しで こんな事いつまで続くのかしら?と思いながら4ヶ月たった頃背後にコツコツと杖の音がして今日も始まるのかと思った途端 左半身から汗がふきだし、滝のように流れ 左手・左足が硬直した。

便も小石のようで便器に当たってカチンカチンと音がした。検査結果P病といわれた。 ストレスが最大の病気の元と思いました。

私共は一女一男がおりましたが娘は嫁いでおります。長男が平成9年5月に 25歳 の若さで胃からの吐血で睡眠中に窒息死しました。晴天の霹靂でした。

13年春頃から首が前に垂れるようになり14年春筋生検の結果 頚部伸筋性ミオパチーはんめいした P病からの絡みか別問題かはっきりしませんが・・・・神経がずたずたになっているのかも。13年9月末で39年勤めた仕事を定年前に辞めました。

それからは主人の世話で 三食 朝寝・昼寝付の生活になりました

今はP病の方はたいしたことはないのですが、首は疲れてくるとフセインの銅像が倒れるごとく垂れ下がるので 傍らに見ている人のストレスがたまるのですぐベッドにもぐりこむ始末です。

いずれ寝たきりになるのかも知れませんが身体は寝たきりでも 心だけは起こしていよう と思います そんな時貴殿の本を何遍か読み重ねていることでしょう 元気を与えてくだ

さいまして有難うございます 暑さに向かいます折御身お大切に 草々

人生いろいろ 全盲の人に教えられる

島倉千代子さんの年代です。以前に「からたち日記」のことをかきました。今回は「人生いろいろ」です。6月17日、岐阜支部の総会に招かれて肥後さんと伊藤さんの三人ででかけました。本を売って貰うためです。帰路バス停に出ましたが誰もいません。時刻表を見ると12:40とあります。時計は12:42分を指しています。次まで30分、その大通りは閑散としています。タクシーは来そうにもありません。ふと、左を見ると白い杖をもったご婦人が立っています。私はつかつかと近寄り「失礼ですが、岐阜駅行きのバスをお待ちですか」と軽快に問いかけました。

婦人は明るく「ハイそうですよ」と答えてくれました。つづいて「あなたがお待ちと言うことは未だバスがきていないということですね」と念おしますと、「そうなんですよ」とかえってきました。バスは私たち4人の貸切です。岐阜駅前降車場で下車すると、その全盲のご婦人はごく自然に私達と歩み始めました。

「岐阜駅前は横断歩道がないので地下道を歩むんです。少しややこしくてね」と話しかけてきます。「私達もパーキンソン病という難病でしてね」と応じます。「ここなのです。地下道は。お気を付けてね。さようなら。」彼女は何の屈託心も残さずにあゆみさりました。後姿を見送っていると50mくらい先の今降りたバス停を通り越して歩んでいます。私はあっけにとられました。全盲の人に目明きが道を案内してもらったのです。しかし、何回思い出してみても本当にさわやかなひと時でした。

以前この会報に江戸古川柳として「番町でめあきめくらに 道をきき」というのを紹介しました。このときの道は人間としての生きる道でした。しかし今回は文字通り「岐阜に行き めあきめくらに 道をきき」まさかこんなことが私の身の上におきようとは考えもしなかったのです。そして、このような具体的な行動を通して「岐阜にいき 管のひとにみちびかれ」となりました。 この岐阜での体験、生涯(障害)の忘れえぬ強烈なものでした。まさに「人生いろいろ」なのです。

あかるさは 人よりあかるさけ 豚みんしらず

人生いろいろ

手話が好きで といわれる西本さん

本を出しました。いろいろの方に読んでいたたいております。手話通訳を人生の生きがいにして、活躍している方から手紙をいただきました。本人の許可を得て原文のまま記載します。

丹羽浩介様

前略 突然の手紙で失礼します。

先日はす

ばらしい本をいただき、ありがとうございます。大変興味深くよまさせていただきました。

申し訳ないことに、私はパーキンソン病についての知識、認識はほとんどありませんでした。病名と体の自由がきかないという程度しか知りませんでした。

そして、丹羽さんが患者であることは 思いもよりませんでした。本を読んだ今でも信じられないくらいです。

それは、やはり気持ちの持ち方なのでしょううね。実は私、写真店のパートの他に手話通訳ということをしております。聴覚障害者、とりわけ手話を主言語としている、ろう者(耳の聞こえない人)ろうあ者(耳がきこえず 話すことのできない人)といわれる方達と関わりをもって活動しています。聴覚障害というのも社会的に誤解が多く理解されていません。ただ聞こえないだけ、と思いがちですが、聞こえないということは、単に情報が届かないだけではなく、日本人としての感性だとか情緒にも深く影響されます。見た目には健常者となんら代わりない「障害」そのものが、見えない事が問題といわれます。すみません。手話の事になるとつい話しがながくなってしまいます。

残念ながら手話通訳は(私の場合ですが)仕事として成り立ちません。それでいま、 パートをしています。

手話がしたくて働いています。職場でも無理をきいてもらっています。身内に聞こえない人とがいるわけではなく、ただ手話が好きで聞こえない人が好きでやっているので、 家族には呆れられています。

人生いろいろ・番外編

ある晴れた日に

伊藤つぐみ

パーキンソン病友の会・岐阜支部総会に出掛けました。支部長は挨拶があるようですが、私と肥後さんは支部長の本の販売と『愛知県支部だより』の配布です。

梅雨どきにしてはめずらしく晴れた日でした。岐阜を訪れるのは**3**0年ぶりになる 私は、胸躍る気持ちを抑え、会場へと足を運びした。

会が始まり、来寳としての丹羽支部長の挨拶を、聞けると思いながらも、後から入場される方々に『もうパーキンソン病とは呼ばないで』と言う支部長の本の販売と会報の配布に終われ、支部長の話もゆっくり聞いてはおられない状況でした。

愛知県支部の会報作りには私も参加しています。だから配布するときも「必ず読んで下さい。こんなに中身が濃くて充実しています!!」と心の中で叫んでおりました。 岐阜県下の人々は、静かでおおらかで私達三人にまでお茶やお弁当まで用意して下 さってとても有り難いことでした。

帰り道にとてもエキサイティングな出来事がありました。バス停でなにやら支部長が目の見えない人に話しかけているのです。私達は一寸離れたところにいたので二人が何を話していたのか分かりません。でも、支部長と二人は話が弾んでいるようでした。彼女はとても明るい感じの人でした。 バスを降りて四人で駅に向かって歩む間終始笑い声が絶えず、さわやかな感じでした。なぜ彼女が明るいのかと、ふと想いました。支部長の人柄かしら、それとも同じ障害者だからかしらと。

駅前の地下歩道の 入り口で彼女は引っ返していきました。考えてみたら、目の見えない人に道案内をして貰っていたのでした。

彼女は立派でしたけれども、支部長もやるじゃありませんか! 私なんか、目の見えない人に話しかけるなんて事で来ません。 そんな勇気ありませんもの。 しかし、良い勉強になりました。

私にとって「勇気」って何なのか、自問するばかりです。この勇気と言うことを考えさせてくれた「ある晴れた日に」感謝します。

体験アラカルト

丹 羽 浩 介

★『もうパーキンソン病とは呼ばないで』

お陰様で大好評です。感動したという手紙は全国から戴いております。電話も沢山頂戴しました。ありがとう御座います。そこで、本を読むということ、つまり他人の体験や意見を、いかに自分のものにするかについての体験をお話します。これも体験ですから、本来は自分で生み出していただけるのが良いのですが、参考までにお話します。私は生涯を通して丸暗記に近い位読み返した本が3冊あります。

1冊目は、20代から30代にかけてアメリカの牧師ノーマン・V・ピール師の書いたもの『積極的な考え方の力』です。2冊目は福井県の医師・米沢英雄氏が書かれたもの『歎異抄ざっくばらん』。3冊目は『歎異抄』そのものです。

私の読書法は、良いと思って購入した書籍の10冊に1冊が良書。

良いと思って購入した書籍の100冊に1冊が選書。

良いと思って購入した書籍の1000冊に1冊が生涯の友。

さて、この生涯の友との付き合い方なのですが、自分のものにしてしまうことです。

私の場合は暗記するくらいまで読み通したことです。この方法がどなたに対してもベストであるとは言えません。しかし、こうすることにより一冊の本が、一つの考えが確実に自分に取り込まれます。後は自分のからだの中で熟成されていきます。そして、自分の考えが出来上がっていきます。本には、色々の種類がありますが、この種の本のように心の鍛え方となると、いろいろと工夫が要ります。

本年の総会のときでした。会員のMさんが微笑みを浮かべて近寄ってきました。 丹羽さんの冊子(『もうパーキンソン病とは呼ばないで』の簡易印刷版)を読ん でXXページが大変面白かったわ、と言いつつ次のように言いはじめました。

- ★ 動作がのろい、といわれた時には、それが一体どうしたというのですか、 私は一生懸命なのです、と思って元気を出しましょう。
- ★ 食事が遅くご飯を床に落とす、と指摘されたSには、いけませんか、私は 美味しく食べているのですと、必ず反論しましょう。
- ★ 手が震えていると指摘された時には、どこが悪いのかと開き直りましょう。
 - * * * * * * * *

と、ニコニコしながら上から順番に口にしているではありませんか。

私は嬉しくなると同時に、「ああ、Mさんはこれで救われていくきっかけをお 掴みになったと思ったのです。他人の体験、主張を取り入れていこうとするなら ば、このように自分のものにしてしまうことです。

もちろんこれは一般論です。しかし、価値があると考えるならお試し下さい。

★問い合わせの話

いろいろの問い合わせが来ます。

「パーキンソン病とアルツハイマー病併発の友の会はないか」という問い合わせが、ある保健所の保健士さんからありました。また、介護で疲れたから「介護をしている人達の友の会」はないのかという問い合わせもありました。結論的には、その種のものはありませんから、私達の会に入るかご自分でお作り下さい、としか答えることが出来ません。

この種の質問をされる方の、事情はよく分かります。大変なのです。でも、生存の原則は 自分なのです。このことが薄らいできたような気がしています。人を頼る気持良く分かります。 しかし、それだけでいれば、そこのところからの苦しみからぬけだせません。

こう言う問い合わせもあります。首都圏の五十代のご婦人です。「先生の本を読みました。 愛知県支部にいていただけませんか」分かりした。入会とかそういうことではなしに資料を送 りましょう。行事に出ていただいても構いません。と返事しておきました。

「友の会」に入会してはどうかと、保健士さんに言われたけれども、友の会に入って何かメリットはあるのでしょうか。というのもあります。友の会に入って目に見えたメリットがあるわけが無いではありませんか。こんなことは、少し考えればわかることでしょう。しかし、友の会には、安らぎと連帯感があります。この精神的な支えは何者にも変えがたいと思います。

ですから、入会するもしないももご自分で決めて下さいといっています。

昨日(8月6日)、知り合った男性です。50代でしょうか。私の書いたものに大変共感していただきました。是非会いたかったといっていただきます。この方は何回訂正しても丹羽先生といわれます。私の生き方、考え方が好きだといわれます。この方のように、何かに共感して本来孤独である人生を力強いものにしていく、これは大切ことではないでしょうか。

友の会がほんとに必要な方は、入会を逡巡している方たちではなかろうかとおもいます。 この人たちには、一人一人問題が違うのですか、共通していることは入会すると何かやらさ れるのではないかという、恐れの心です。一歩を踏み出さずに、自分の頭の中だけで思い めぐらす。 これは、生存として一番感心しない生き方です。

どの道難病なのです。難病患者は難病患者として毅然として生きたいものです。それが、 私の望みです。

「人生いろいろ」を通して私の言いたかったこと

丹泅浩介

「松阪肉類末記」の伊藤加津子さん。全盲でありながら何の屈託も無く生きる岐阜市のご婦人。身の回りに聴覚障害者が誰もいないのに、手話が好きだから、音の無い世界に生きる人たちが好きだから、そのためにパートをしているという西本京子さん。

私は寝たきりになるかもしれません、その時は、丹羽さんの書いた本を読み 重ねているであろうといわれる石川県の人。他人の考え方を自分の手法で自分 のものにしてニコニコしている会員のMさん。

皆さん、素敵な人たちです。この人たちは、私にこう語りかけてくれました。

- ★ どのような状況でも人様に奉仕できるのです。
- ★ 音が聞こえる世界に生きること、何て幸せなのでしょう。だって 美しい音楽がきけるのですよ。
- ★ 目が見えるって、なんと素晴らしいことなのでしょうか。だって、 美しい世界がそこにあるのだから。
- ★ いいことが書いてある本に巡り合ったら、とにかく自分のものに しちまおう、という生存意欲の高い人。

パーキンソン病で生きる意欲の乏しくなっている人に申します。あなたは、 自分の足らないところにばかり、目が行っているのではないですか。つまり、 感謝の気持が薄いのではないでしょうか。感謝の気持は幸せに生活する根本の 心です。

感謝とは、自分の身の回りの人たちに、日頃お世話になっているという、 自分の思いです。

感謝とは、広く社会全体にたいして、皆様のお陰で自分の存在と生活が 成り立つという自分の思いです。

感謝とは、自分の生存自体について、自然に対する自分の思いです。

このように、感謝の気持があれば、どのような状態に置かれよとも、希望がわいてくるのです。希望かあれば、今日一日を生きとおす勇気がわいてきます。

生きるということは、今なのです。今日なのです。明日のことを心配するよりも、今日一日を全力で生きましょう。

人生いろいろパート2

人生いろいろ パート2 はわがなかまです ここにもいろいろの人生がありました

人生すべからく 気楽に それでいて 緊張と奥ゆかしさのあるもの そのようなものが 理想ではないでしょうか

この部分の編集は 中島陽太郎 です







ひとことの善意

尾張旭市

則竹昌常

『もうパーキンソン病とは呼ばないで』の第 1 刷出来上がるのを一番待っていたのはひょっとしたら私だったのではないか。と言うのも、太極拳同好会の会長さんと次の金曜日の練習の合間に『本』のPRをさせていただく約束を取り付けてあったからだ。以前にも難病対策の署名とカンパをお願いした実績がある。今回も 5 部を会で買い上げて頂いたこともあり、瞬く間に 18 部売れてしまった。おまけに「サインして」「握手して」なんて言われる場面もあっっていささか戸惑った。いずれにしても同好会の皆さんには感謝している。

『本』の評判はすこぶる良い。著者でなくとも肌でわかる。が、今回私に与えられたテーマは『本』そのものではなくて、普及し浸透していく過程で、ふと垣間見られた、いわば《人間の絆》についてである。大変な難題だ。現在までに私が扱ったのは 69 部、いろいろな反応が出かかっている。電話あり、メールあり、手紙あり。直接ご来駕いただいた方もある。大方は、「病名を知っていただけで実態は『本』で初めて知った。」「私の知り合いにそういう方が見える。「病気と仲良くしてがんばってください。」というものだった。中には「××という漢方薬が効くそうです。試してください。」と試供品を持ってきたS君夫婦、最近脳梗塞を患ったK君、リハビリの延長で立ち寄ってくれ暫しの病談義の後、「春惜しむ昔の名刺そのままに」と一句残して帰っていった。誰であれ、結果はどうであれ、善意のひとことが嬉しい。

そうした中で、便箋 7 枚にびっしりの、しかも勁筆の封書がひときわ目立った。それは、私が高校、大学の 7 年間机を並べて勉強したMさんという女性からのものだった。10 年位前、個展に招かれて見に行ったきりだ。

彼女はのつけから「著者の生きかた感動しました。」ときた。どうしてか?彼女は三十代にひどい神経症を患い途炭の苦しみを味わったと言う。そしても

がき苦しんだ挙句『森田療法』にたどり着いた。そして救われた。著者もパーキンソン病と診断されて『森田療法』の本を読み漁ったようだ。『内観』にも参加し法然や親鸞に接近していったように思われる。Mさんは「著者の生き方と森田の生活道に沢山の共通点を感じます。」と言う。そしてまたMさんは著者が清沢満之から頂いた「天命を信じて人事を尽くす。」は自分の座右銘のひとつだと断言する。言葉のあそびではない。正直言ってこの辺りになると苦渋の体験をしたものでないと理解しがたい。実は私も家族に神経症の子どもを持つ親として胸をえぐられる思いがする。あるとき床に横になってTVを見ていると渡邉利夫氏が『わが内なる森田正馬』を語っていた。大いに感動し森田の『現代に生きる森田正馬のことば』を取り寄せた。場違いの理事会の席上で神経症を一席ぶってしまった。それにしてもカウンセラーとして他家の子弟には真正面に向き合えるが、己れの家族には未だに信実を語り合える状態になっていない。そのもどかしさをどうすることも出来ない。

Mさんは切っ先を私のほうに向ける。いわく「則竹さんは、高校、大学時代、 ニヒルで斜めに構えた感じの方と思っていました。(私の思い違いでしょうが)。 教育者になられたのも信じられませんでしたが、今また、パーキンソン病友の 会のお世話役で、人の為に動いていらっしゃるのに驚きます。」

さもありなん。よく観 てたね、と言わざるをえない。それにしても「ニヒルで斜めに構えた」との表現は予想できなかった。少しばかり釈明させていただく。小6を終える昭和22年3月19日母が突然亡くなった。父はすぐ再婚し2人の弟が出来、同時に家内がぎすぎす軋みだした。家業にも響き高3の夏倒産、文字通り夜逃げした。私たち一家は衣・食・住にも事欠いた。学校では廊下に張り出される非情な実力試験の結果に悔しくて泣いた。確実に10番、20番と下がっていった。当然だった。教科書を開く場所も時間もなかった。父は就職せよと言う。内緒で最寄りの国立を受験、不思議にも合格した。不満ながら辛うじて誇りだけは保てた。「ニヒルで斜めに構える」のも無理からぬことと己を許してきた。一種の自己防衛だったかもしれない。「ふるさとはに遠きにありて思ふもの」と言う。やはり生まれ故郷から足が一歩遠のく。

「教育者」とはいささか気恥ずかしい。何か聖職くさい。が、敢てここでは自 負の念を隠さない。奉職した学校の理念がよかった。いわく《愛と平和と自

(16) 人生いろいろ パート2

由》。先輩たちがよかった。教員組合に関わってきたことも良かった。青春の大半をそこで学んだ。蛇足だが心理学検査では適正は「教師」と出た。教えることは楽しいことだ。生徒の目線に立つ、それだけだと思う。

奉職した年、初めて中学の担任を持った。わずか 18 人のつるつる坊主たち。今年還暦を迎えた。H君は還暦同窓会を主宰、N君は毎年中学同窓会を開き旧交を温める中心になっている。今回の『本』の販売にも応分に働いてくれて助かった。感謝している。人との関わりは、時空と予測を超えて自在だ。私との関係で言えば『私も変わったがMさんも変った』。を結論としたい。

※ 注釈

- ☆『森田療法』:80 年ほど前、森田正馬によって編み出された神経症の治療法。ひたすら臥褥(がじょく)して終日あるがままの自己と向き合う.
- ☆『内観』とは文字通り内なる自分をみること。仏道修行の一つ究極は悟り。
- ☆『内観療法』:①してもらったこと、②お返ししたこと、③迷惑かけたことを内省することによって、神経症を治療する方法。

- 1

則竹さんは、元・英語教師というのにめったやたらと漢字を使います。 今回は「臥褥」(がじょく)です。「臥褥」そのものの意味は「病気で伏せることですが」ノイローゼの治療方法として画期的な効果がある森田療法では、ノイローゼ(神経症と訳されています)の治療を受けに来た患者に対して、1週間の臥褥を命じます。

この間、患者は薄暗い部屋で人と話さず、ただ自己を回想します。

また、時空も聞き馴れぬ表現ですが、これは単に時間と空間を越えたという程度の意味でしょう

N.K

原田みよ子さんの原稿

原稿は会員の山田信子さんに依頼しました。ところが次の手書文をつけて実 娘の原田みち子さんから投稿していただきました。親子の心遣い、娘である印 字者のパソコン操作への思い入れが分かり、この原稿としての価値を見ました。

原田さんの印字したものを、印刷会社の一粒社に特別に依頼して、復刻します。今回は越澤英子さんの原稿も本人の印字したものです。皆さんもこのスタイル習っては見ていただけませんか。(編集 中島)

丹羽浩介様 はらびに会報編集委員会様へ
今回、樊山田信子が、26までかにしつでホームに入居していたため、
私が原稿を書かせていただきました。
PC作操が、不慣れなためい印刷したものは、少し大きくなってしまい
ました。コピー機で縮かしてみたら、上部に余計な線が入って
しまいました。とりあたず、締めけりまで時間がないので、
両方とも送付させていただきましたので、もしこのまま使える原稿
であれば、使っていたたざきたいです。使えないものだったらゴメンナサイト
よろしくか原立します。
7/29 原田みよ子

支部長様始め役員のみなびによいかあ世話にありがとうございます	i
(8)-11. 1002-2019 10 EST (5013/ Ten: 1/2 to 103/ 2/2012/	ません
でした。境がかって書いていました。よろしくお願いします。	

7 A 29 A

山田信子

母とパーキンソン病

小牧市・山田信子

娘・原田みよ子

私の母は、現在61歳で、パーキンソン病歴は7年になります。母が診断 を受けた頃は、私も姉もまだ結婚前で、実家に父、母、姉、私の4人で住ん でいました。母が病院でパーキンソン病と診断されて帰ってきた当日、母と 姉と私の3人で実家の2階で話したのを思い出します。「パーキンソン病」 と言う病名を初めて知ったのはそのときです。その頃の母はまだ元気で(私 📥 や周りの人には、元気に見えても母は体に不調を感じて病院に行ったくらい なのでつらかったでしょう)、ハードな流れ作業の工場で10年間働いてい て、病気になったからといって仕事を辞める様子も無く、家事もそれまで通 りこなしてくれていました。それから4年間、母は会社には病気のことを言 わず、働いていたようです。毎日顔をあわせて家で普通に生活していた私 は、徐々に進行していた母の病状にそれほど気をとめる事もしなかったので すが、3年前、母はもう流れ作業にはついてゆけなくなったという事で、仕 事を辞めました。今から5年程前に姉は結婚して家を出ていたので、その頃 は父と母と私の3人で生活をしていましたが、私もそれから間もなく家を出 ました。車で20分位のところに住んでいるので、一緒に住んでいた頃も、 家を出てからでも「何で、もっと母を気遣ってやれなかったのか!」と、今 は反省のような、後悔のような、「お母さん、ごめんね・・・」と言う気持 ちです。

今年に入ってからは特に進行してきたように思います。腰が曲がり(ひどい時には、90度ぐらいに曲がっています)、動作も遅くなり、台所に立っていてもゆらゆら動いているような状態で、私の目から見ても去年よりも

明らかに「進行しているんだ」と感じるようになりました。7月の初め頃か ら、姉の家や私の家に「今、家の前で話してなかった?」と確認の電話が頻 繁にかかってくるようになりました。いってもいないし、話もしていないの に、母には見えて聞こえ、それもみんなこそこそ自分のことを話しているよ うに思えるらしく、姉や私に対しては、自分に隠し事をしていると言うので す。実際、母に秘密にしていることはなく、これはただ事ではないかも!! と思い実家に帰ったときには、母の幻覚、妄想はピークの状態で、どうした らいいのかパニックでした。昼も夜も酷い状態で、父も母も前日から寝てお らず、体がもたない状況でしたが入院はできなかったので、次の日市役所で 市内のグループホームを紹介してもらい、ショートステイで10日間グルー プホームに入りました。普段の母は、とても真面目で几帳面なほうなのです が、父の仕事がら母の生活もかなり不規則で、薬の飲み方も不規則になって いたようです。でもそこのグループホームでの規則正しい生活で、毎日決ま った時間に薬が飲めたことや、家事から開放されてゆっくり出来たことで、 母も少し回復できたように思います。母が帰ってきてまだ2日目なので、こ れからのこと少し不安もありますが、このことがあって、母の病気のこと、 母の苦労を少しづつですが、考えられるようになった気がします。

母は、約2年前結腸癌の手術をしました。私は正直、7年前パーキンソン病と言われたときより、「癌」という病名にショックを受けましたが、母はその時「私はパーキンソン病だし、この病気(癌)で死ねたらなぁ」(母はマイナス思考(>_<))と言っていたのを思い出しました。外科の先生には「残念ながら死ぬことはありませんよ。」と言われていました。(結果は良好のようです^^)そのくらいパーキンソン病と友に生きるということは勇気のいることなんだと、今回のことであらためて感じました。

いどばたかいぎ その2

船旅・沖縄

越 澤 英子

「ものは相談だけれども、ここから名古屋港フェリー乗り場まで五千円で行けますか。」と玄関 前まで迎えに来たタクシーの運転手に主人が言った。突然フェリー乗り場と云われて驚いた様であ ったが、「行けるんじゃないですか。この間金山から乗せて行ったが、こちらの方が近いと思いま すよ。」商談成立。私はほっとする。私はラッシュアワーの電車に乗ることが恐かった。この旅行 も、そもそもマイ・カーと船でのんびりと行くということで計画を立てたのだが、マイ・カーの運 賃が非常に高く、片道九万円を超すということで、レンタカーを借りることにしたのである。家の 中で転んでばかりいる私が久しぶりに大きな旅行をする気になったのは、船と車で歩かなくてもい いと云うことで、その気になったのである。

船に乗ったことのない私は船だったら、家に居るような調子で行かれるものだと、たかをくくっ ていた。ところが出航して驚いた。海は凪いでいるのに船は揺れるのである。かすかな揺れでも普 段重心が動いている私には、すくみ足が増幅するような恐怖感が襲って来た。やっぱり旅行は無理 だったのだろうか。机も椅子も床に固定されているので、私が動けなくて咄嗟にかじりついても動 かないことが分かって少しほつとする。主人は私のためにスイート・ルームを取ってくれたのであ る。船のスイート・ルームは普通のホテルのツイン・ルームぐらいで、ベットから腰掛け、机、ト イレと伝い歩くのには丁度よい距離である。一寸安心したが、ロッカーの横に等身大の鏡と窓があ って、窓から海を見るとよけいに歩けなくなってしまい、これからの長旅を思って落ち込んでしま うのである。動けなければ寝ていればいいのだと洋服のまま横になって雑誌を読みだしたがすぐに 退屈してしまい、旅に出てまでテレビを見るという自己嫌悪に落ち入りながら、テレビを点けてみ る。点けてみたが、NHKがどこを廻してもでない。結局よく見えるのはBS2だけだと判る。

船に乗ったのが10時半だったので、まもなく昼食を知らせる放送があり、主人は沖縄そば、私 はゴーヤチャンプルを注文した。船に乗ってすぐに目的地の料理が食べられるなんて一寸嬉しくな った。料理が運ばれて来るまで、みんな丸い窓から海を見ている。どの人もみんな目は海に向いて いる。私も席に着くと自然に海へ目をやつた。水平線が霞んでいる。運ばれてきたゴーヤチャンプ ルはおいしかったが量が多く残してしまった。食事が済んでから甲板に出て見ると太陽と潮風が気 持ち良く、日陰を見付けて足を投げだす。やっと恐怖感から開放される。主人は大の字に寝る。私 は海の涼風をほしいまま浴びて、思い切って旅に出て良かったと思う。

私たちの乗った飛龍は45時間かけて午前8時半に那覇新港に着いた。飛龍は私たちを下ろした 後高雄を回って4日後に戻って来る。その4日間を私たちは沖縄観光にあてたのである。

さあ出発だ。沖縄を楽しもう。那覇の街は前に来た時とくらべれば大都会に変身していた。先ず は58号線を本部に走り、世界一と云う水族館に行った。水族館は以前の沖縄海洋博覧会場の一画 に出来、敷地が広く私の足ではとても歩けないので車椅子を借りることにした。

世界で一番という水槽から見ることにする。自然に深海に誘うように出来ている水槽は見事で圧

1

倒された。じんべいざめやえいなどが悠々と泳いでいるのを車椅子に座って見惚れていた。

名古屋は海亀の研究が盛んだが此処は鮫の研究に力を入れているようである。鮫の大きな口と鋭 利な刃物のような歯が展示されている。

次にイルカのショーを見る。飼育係が観客の中から子供を選び、いろいろ教えている。その子供 がその通りにすると、イルカが一斉に飛び上がったり、お辞儀をしたりして、観客の拍手をもらっ ていた。イルカと人間の波長が良く合っていて気持ち良く見られた。

蘭の館 (熱帯ドリームセンター) は海洋博の時と全く変わっていない。何百種類の蘭が手入れさ れて、いい香りを放っている。水族館から随分離れているので人も少なくしんとしている。この前 (12年ほど前) 来た時はツアーで来たので忙しく駆け足状態だつた。「ひめゆりの塔」や各県の 「慰霊塔」を参拝した後はみやげものやにばかり寄っていた印象が強かったので、今度はゆっくり と沖縄を一周することを目的に来た。蘭の中を歩きながら、歩くと言っても車椅子だが、旅行が出 来たことに感謝せずにはいられなかった。

最初のホテルは水族館と地続きの全日空ホテルズ・沖縄ロイヤルビーホテルで海の眺望、眼下の 緑、真っ白な砂浜、南国ならではのゆったりした時間を過ごした。

さて、次の日は最北端の辺戸岬に向かった。その前に世界遺産である今帰仁(なきじん)城址に どうしても寄りたかったのでホテルを早く出て、今帰仁村の歴史資料館に着く。こじんまりとした 資料館であったが、人類が生活を始めた頃より現代までの生活の変遷を要領よく展示してあった。 女性館員が大きな壺にカサブランカをいっぱい活けていた。主人は二、三質問していた。つづいて 隣りの今帰仁城址へ行く。琉球三山時代の北山王の居城だけあって立派である。私は薬を飲んだん だが午前中は特に動きが悪く、主人と杖に縋っての見学なので疲れてしまって、城址の入口に腰を 降ろしてしまい、主人一人が歩きまわっていた。森に囲まれた城址から海が見え、難攻不落の山城 と云われた昔を実感できた。主人の後姿が見えなくなると私は急に心細くなった。その時、城址の 入口で切符を売っていたおじさんが出て来て話相手になってくれた。猫が一匹現われた。おじさん はしきりに猫の名を呼んで「今日ここの事務員が置いていったんだよ。」と言った。そこに又二匹 の猫が何処からともなくやってきた。捨て猫かなと思っていると、おじさんは次々と猫の名を呼ん だ。その中の一匹が大きな声で鳴き始めた。普通の声では無い。私は目の前で猫の恋を見てしまっ た。猫の恋はしつこくて、主人が城址を見終えて、二人で車に乗り今帰仁城址にさよならする時も なお続いていた。

辺戸 (へど) 岬に着いたのは丁度昼だつた。岬には本土復帰の時の碑があった。戦争末期の沖縄 の大変さを思い、高校二年の時、学校から連れて行って貰って見た、映画「ひめゆりの塔」の悲し かったこと、制服の袖がぐしゃぐしゃになり、電気の着いた映画館の中は目を赤く腫らした乙女で いっぱいになったことを鮮明に思いだした。あの時は二年生が二階で一年生と三年生は一階で見て いたなあなどということまでも思い出した。

二日目のホテルのある石川市まで、今度は東側を南下する。58号線と違って山の中を走る。青

嵐という感じの中を思い切り良く走る。緑の中の「はいびすかす」が美しい。一花貰って押し花にした。ホテル(ロイヤルガーデンリゾートオキナワ)は緑豊かな丘の上にあり、海側の眺めの良い部屋であった。ホテルマンがいろいろ配慮してくれ気持ちの良いホテルであった。レストランのメニューに沖縄の家庭料理という定食があったので注文した。美味しかったが量が多く、さすがの主人も残してしまった。沖縄の人はこんなに食べるのかなどと云いながらいただいた。

次の日は朝ゆっくりホテルを出た。ホテルの近くにビオスの丘があったので寄ってみた。ビオス (BIOS・ギリシャ語で「生命」という意味だそうである)長い歳月をかけて森や湖・川や大地 そこに棲むビオスたち、中でも湖水鑑賞舟で、ちょっとしたジヤングル・クルーズが楽しかった。

午後は首里城跡をゆっくり見学する。守礼門からと思ったのだがが、修学旅行生で大変な混雑、私の足は人がいっぱいいると見ただけで動かなくなり、首里城に一番近い駐車場に廻してもらう。木曳門から入り(車椅子コース)首里城正殿の最後の門・奉神門をくぐる。様々な儀式が行なわれた御庭(ウナー)は、磚(せん・敷き瓦)というタイル状のものが縞模様美しく敷かれてあった。先ず正殿大龍柱(一対)をみる。高さ4.1メートル細粒砂岩で見事な出来である。正殿には国王の象徴である龍が33体棲んでいるという。南殿・番所の王朝文化を支えた技術を見てまわる。足の弱い者への配慮がなされていて助かる。つづいて、正殿・御差床(うさすか・国王が座る玉座)に琉球王国の栄華を偲ぶ。北殿ではビデオで正殿が復元された過程をみる。最近行なわれた沖縄サミットの写真などもあった。外に出て、主人がこの前見たが守礼門もついでに見て行こうと云い行くことにした。正殿に至る道は石垣と数々の美しい門がある。中でも一際大きく美しい門が守礼門である。門に掲げた偏額には「守礼之邦」とある。礼節を重んずる国ということである。

私にしては良く歩けた。嬉しかった。首里城公園レストランで一休みする。

三日目のホテルは沖縄第一ホテルだが、これには少々曰くありで、食いしんぼうの主人が選んだのである。私の通っているマッサージの先生宅で、たまたま目にした「旅の手帳」という雑誌が二度目の沖縄という特集をしており、その中の25皿からなる理想の朝ごはんで沖縄の元気をという料理写真を見て主人が飛び付いたのである。全部で50品目、585カロリー、沖縄の野菜を中心とした、体にいいものばかりである。詳細は省略するが私にはまるで薬でも食べているようであった。主人は満足そうに料理の説明を聞きながら私の残したものまで食べていた。

食事の後は沖縄最南端の嘉屋武岬(キヤンミサキ)へ行く。マッサージの先生の奥様がここの出身で尋ねることにしたのである。突然の訪問でご両親をびっくりさせてしまった。申し訳なく思ってるが、名古屋のお孫さんの話やらお家の新築(マッサージの先生宅)の話など、また、台風の通り道である家を見せていただいたりして楽しい時間を過ごした。名古屋のお菓子を少し持っていったのに喜ばれて、帰りに美味しい人参を沢山いただいた。嘉屋武岬特産の大きくてやわらかい人参である。帰ってから友達に分けてあげ、大変喜ばれた。

天気にも恵まれて大変楽しい旅でした。北端と違ってこちらは南風が優しく、燕がしきりに飛んでいた。

3 この原稿は越澤さんが印字したものを採用しました

今にして思う事

名古屋市 大野 志都子

私は今年60歳になりました。でも、自他共に認める10歳ほど若くみえると思います。昔よく手相見の人が道路に立っていましたが私も面白半分に時々みてもらっていました。そのうち80歳位の白髪のおばあさんが言っていた通りの人生を歩んでいる事に気がつきました。

結婚の時期、嫁ぎ先の状態、離婚する事、不動産を持つ事、50歳で大病、 80~90歳まで生きる事など大体こんな内容だった。

50歳の大病までは大当たり、しかし不治の病とは聞きませんでしたこれから80~90歳まで生きるのであれば病気に負けていられない生活面でもある程度の準備をしておかないとと思いました。23歳で結婚、1人男の子を産み、26歳で離婚、幸い1部上場企業に、再就職でき経済的には恵まれ32年間勤めました。最初平成3年頃何か前兆はあったんですが身近にパーキンソン病の人がなく、あちこちの病院回りをしたんですが異常が分からず、3年が過ぎてしまいました。

平成6年いよいよスリッパが履けなくなり、体が固くなり、夜、日赤病院に飛び込みそのまま入院しました。そこでパーキンソン病と診断され投薬されました。今なら薬よく吟味して飲むことも出来たのですが無知でまったく未知の世界のことでしたので、与えられるまま飲薬したことが少々残念です。もう少し飲み方があったような気がします。最初は日赤第一病院へ通っていましたが、現在は我らがマドンナ服部優子先生に月1度往診していただいております。薬の飲み方等色々相談(?)しあって飲んでます。時々忘れ物をするところが好感度アップするところです。いいところのおじょうちゃんという感じかな。先生を茶化しては駄目ですね私もこんな心の余裕が持てるようになりました。厳密に言えば平成6年退院後、5年間位は普通に会社勤めが出来ておりましたが、平成12年になっ

て薬でコントロールしなければならなくなり、定年前に退職しました。

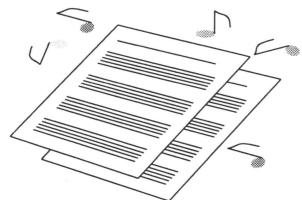
さすが元気印の私でしたが退職後1年位は少々落ち込みましたね。丹羽 支部長さんのおっしゃる通りパーキンソン病はコントロールできる病気だ と思います。私も、毎日薬が切れる時間帯はとても胸が苦しく辛いです。 治療方法がありません。1日何回もあります。ぜんぜん歩けない時間帯が あるかと思えば、ころっと正常になってしまいまた私の場合 震えが全く ありませんので普通の人と変わらなくなります。だから必ず来る普通、に なるときを待ちます。他にあるいろいろな症状は私にもやっぱりやってき ます。 もう一つ治療として、マッサージを週2回 健康保険のほ うからうけています。

訪問看護の看護婦さんが週1回来てくれます。それは優子先生の補足のようなものですかね。でも結局振り返ればストレスから来る何者でもないと思います。だから今は自分のやりたい事は思ったらすぐ実行します。少々無理でもヘルパーさんに付いていってもらって、どこへでもでかけます。

最近では民謡の会、絵画、書道展、踊りの会を見たり、自分ではカラオケとお花を習っています。

先日は私が作詞した曲をカラオケの先生に曲をつけていただき、2曲製作無事発表会も開いて頂きました。もちろん歌うのは私。今はそのテープの制作とケースのパッケージの製作の構想を練っているところです。(数人の友人からテープの要望有り)という訳で、パーキンソン病のことは忘れる事は出来ないんだけれど忘れているというか気にしない。だって体が悪いわけじゃない。神経だから死なないと思う。思う存分生きようよ。

楽しく生きようよ。



人生いろいろ パート2 (25)

発病 → 苦悩 → 希望 名古屋市 奥田冨美江

昭和 55 年 11 月ごろのことでした。親戚に葬式があり、親しい人がたくさん集まりました。 久しぶりに会った弟に「お姉さん、手が震えているよ。寒いの?」と聞かれ「寒くはないけど、このごろ時々手が震えるのよ。」と答えた記憶があります。 それが発病の始まりです。

だんだん震えがひどくなり、人に見られるのがいやで鍼灸に通い始めましたが、効果は芳しくなく、筋肉がだんだん硬くなって動作が緩慢になっていきました。原因が知りたくて近所の市大病院に入院し、検査を受けました。CTを撮り、髄液を取り、カテーテルを頭の中に入れ、身体中がやけどをするようなとても恐ろしい検査をしました。

1 週間の入院でふらふらになり、検査の途中で止めてもらって無理やり退院してきました。当時、小学生だった 3 人の子供のことが心配で原因不明のまま退院しました。

それからの半年間は、地獄でした。夜になると、恐怖と悲鳴、昼間はじっとしていると、飛行機の急降下のときのように身体が奈落の底に落ちていくような感覚がしたり、道を歩いていると赤信号でも気がつかず、平気で横断歩道を渡っている自分自身に身震いを感じておりました。

一番の心配は子供のことです。受験を控えた長女にも心配をかけ、毎日泣いてばかりいました。苦しくなると、外に出て歩き回り、どういうわけか地下鉄の柱にしがみついていることがよくありました。苦しくて苦しくてのた打ち回り、「助けて、助けて!」と仏壇の前に座っていたのをよく思い出します。

それから6ヶ月後、近くに住んでおられた友人が、長野県の松本市の病院で、同じパーキンソンの病気で歩けるようになったという話を聞いてどうしても行きたくなり、勇気を奮い起こして一人でその病院を訪ねました。

その病院は神経内科の個人病院で、日本中から患者さんが来ておられました。毎日、200人以上の人が診察を受けに来られており、待合室はいつも満員でした。 1泊して予約を待ち、ようやく私の順番がきました。女医さんでしたが「歩いてごらん、字を書いてごらん。」などと指示を受け、いろいろな検査を受けました。最後に、「あ なたの病気はパーキンソン病です。どうしてもっと早く来なかったの?」といわれ、「通 院すればだんだんよくなりますよ。」と言って、皮下注射をからだのツボに打ってくだ さいました。

15 分後、不思議なことに身体が軽くなり、自然に顔がほころんで女医さんが女神様のようなオーラを出しているように見えました。うれしくて、うれしくて、家に電話して「明日帰るけど、今までのお母さんとちょっと違うお母さんになれたから、期待しててね。」と連絡をしました。薬を一錠飲むと、半日くらいの間、今まで感じたことのないからだの軽さや気分の爽快さを感じ、字も人並みに書けたり、誰にでもにこやかに挨拶ができるようになり、3 年ぶりにおしゃれをする気にもなりました。

Lドーパと注射のおかげで子供たち3人を無事に育て上げることができました。こうして修羅場をくぐりぬけた私は、今では同じ病気の人をえらそうに、元気付けています。友の会にも誘われて入会し、いろいろな経験をさせていただいています。この病気にならなかったら、素晴らしい出会いもなかったし、人の心の痛みも分からず、自己中心の人生を送っていることにすら気がつかなかったでしょう。感謝、感謝。

奥田さんの文章

会報『愛知県支部だより』創刊号は、平成12年12月です。その年の8月 に会長補佐として本会に入りました。初めての会議の席で した。当時 の支部長八野健蔵氏が支部会報の発行が夢だと言われます。

私は、総て任せるなら年内に20ページのものを作りましょうと即答しました。その時の役員の方は「会議に初めて来て何も分からないのに、あいつは本気か」と思ったと後程聞きました。」

その時の奥田さんの自己紹介の文にこういうのが有ります。「病院の待合室で年寄りの婦人に、あんた若いのにどこが悪いのかのー、と話しかけられました。私頭が悪いの、と答えたら、その婦人は、気の毒にのーと言って、席を離れたと有ります。

ユーモアあふれる奥田さんにこのような一面が有ると、初めて知りました。

丹和特丁

人生いろいろ パート2 (27)

パーキンソン病、こんにちは

多治見 河嶋 徹

今から3年位前だったか、私の体内に得体の知れないものが住み始めました。 当時、非行少年と起居を共にしながら更正を図る仕事に携わっていました。 若い時から、この道一筋に勤めてきました。四六時中非行少年と生活をともに しながら、授業、作業、運動などを担当していました。体力だけでなく、精神 的な気苦労が伴う仕事でした。体の異常さに、最初気付いたのは、五三歳頃だ ったでしょうか、非行の質の高い児童が急激に増えてきた頃でした。手が焼け る児童に振り回されていた時、左足の痙攣に気付きました。児童の非行を叱責 している時に左足が激しく痙攣しているのです。今までに無かったことです。 叱責が終わり、冷静になると痙攣が鎮まりました。異常な痙攣について観察し ますと、過度な興奮、緊張、運動の時に起きるようです。目にみえる体の異常 さはとても気になりました。

他方、眼に見えない身体の異常も出てきました。夕暮れ時、腰を中心にして 背中あたりに、鉄板が張り付いたような硬直感がありました。筋肉が硬くなり 体の動きはぎこちなくなり、身体を動かすのが大儀になります。そして、ひょ っとしたら、筋萎縮症の始まりではないかと、不安が押し寄せてきます。自分 の身体ながら、コントロールが及ばない部分があるわけで、その不全感は、と ても不愉快なものでした。

身体の異常は、左足、左手にも現れました。動きは緩慢になり、その上、不器用なのです。左手の異常に気付いたのは入浴時でした。身体を洗っていて、左手で洗う部位になるとか細く、不器用な左手を意識するようになりました。左足も左手同様に、不器用、非力、緩慢さを呈しています。最初に気付いたのはスリッパを脱ぐとき、右足はさっと脱げるのですが、左足にはまだ脱げずに残っているのです。"あれ?"と思い、脱ぐ始末でした。これら左足、左手の異常の原因は何なのだろう、もしかすると、知らぬ間に、軽い脳溢血に冒されたのかとも思いました。

これらの身体の異常は、不快でしたけど、日常生活に支障をきたすほどでは ありませんでした。だから、心配しながらも、病院を訪ねるまでには至りませ んでした。わたしの身体のどこかに住み着いたある者が、異常を発している。 それは何者なのか。つまり、何の病気なのか身体の異常を意識しながらも何の 病気か判らないのでとても不安になりました。

風邪で通院していた時でした。身体の異常を発している。それは何者なのか、 つまり、何の病気なのか、体の異常を意識しながらも、何の病気かわからない ので、とても不安になりました。

風邪で通院したときでした。体の異常を医師に話しました。"ならば、脳のX線を撮ってみましょう。"その結果、脳には何ら異常なしとの診断を受けました。 異常が無いことは非常に良い事ですが、私自身は、体に異常を感じていて、その正体を知りたかったです。

それから 1 年くらい過ぎてから、人間ドックを受診しました。担当医師に体の異常を説明しますと、"国立名古屋病院の神経内科で診て貰ったらどうです"と勧められ 1 週間後に国立名古屋病院の神経内科を訪れました。私が体の異常を説明したあと、体の機能を診られ "これはパーキンソン病ですね。"と病名を断定されたのです。私の体内のどこかに住みついたものの正体を見つけてくださったのです。病気の内容や、治療に伴う不安より、正体の知れない不気味さが、解消された気持ちのほうが大きかったです病院からの帰路、守山図書館へより、パーキンソン病についての図書を読んで、病気の概略を知りました。その後、パーキンソン病関係の図書を読んでみましたが、パーキンソン病が何たるか、いまだによく判りません。はっきりしているのは、私の体の異常さだけです。

ともあれ、私の体に住み着いた不愉快なものの正体が明確になり、治療もなされるのです。今後は、パーキンソン病と、がっぷり四つに組んで大勝負です。治癒することは無い病気なので、寿命が尽きるまで付き合っていかねばなりません。加えて、進行性の疾病です。パーキンソン病との闘いは、長期で、静かなそれでいて油断ならない闘いです。その上、前向きになりがたい闘いの困難さも覚えます。平成14年3月に退職しました。その後は職業に就かず、毎日気ままな生活を送っています。このような日々の中で、パーキンソン病との闘いを続けています。歓迎せざる客パーキンソン病と向き合い、同居し、付き合っています。パーキンソン病に罹った不運を恨んだりは、もうしなくなりました。今後はできるだけ仲良く歩いていきたいものです。さようならのない旅路を、今あるきだしています。"パーキンソン病、今日は"と、心静かに言えるようになりました。

人生いろいろ パート2 (29)

私の歩んだ人生 (40代から) 千種区 坂本 享子

昨年、動物園で転んだとき、整形外科の先生に11年ぶりに 会いました。平成元年に、変形性股関節不具合のため左足を手 術、平成13年には右の方も手術こちらは大腿骨同時です。病 院のカルテは数年で処分するそうですが、私の手術は大変だっ たのでカルテ庫の中にぼろぼろなって保管してありました。私 はこの先歩くことが出来るようになるだろうか、と先生もとて も心配していました。パーキンソン病での骨折で不安な40日 間の日々でした。先生もパーキンソン病患者が入院して、リハ ビリの時間になって病室まで迎えにきてくれますが、動くこと が出来ません。そして薬が効いてくると自分で歩いて地下のリ ハビリ室まで行くので本当にびっくりしていました。股関節や パーキンソン病も何人に1人何万人に1人など、これも人生の 巡り合わせで仕方がない事ですね。このとき同室だったお友達 と、明日5年ぶりに会うことになりました。パーキンソン病発 病以来はじめてです。私の歩き方6/3日を見てびっくりする でしょうね。調子の悪いとき時間をあけて、また色々なことを する毎日です。これまでの時間これからの時間、家族にとても 心配や迷惑ばかりです。朝食の支度の頃、まだ体が動かないの でじっと座って待っている状態です。

(30) 人生いろいろ パート2

7月~8月週一で介護の勉強会に行ってきます。(主人です)教えて下さる先生が70代で、ボランティアで来て下さって居るとのこと感心しました。こんな分で助けてもらう事ばかりですが、感謝しながら心穏やかにくらしていきたいと思っています。3歳になる女の子の孫が居ますが、私の震える手を見て、きょうこさんパパもママもいるので心配しなくていいのよ、と言われまた涙です。主治医の先生は気持ちの持ち方ですよ。ぶる震える患者に薬を増やしましょうか、と言ってもにこことが出来るのはいい事ですよ、と励まされて帰宅します。

今、医療保険、介護保険で訪問歯科を受けています。検診ですが軽いうちに見てもらいたいと思いまして、これ以上進行しないことを願いつつ皆さんと交流しながら、明るく元気に送るように心掛けていますが(ふるえる時は気分すぐれなくて大変です)まとまりのない文章で申し訳ありませんが、添削お願いしますね。読んでもらえたらと思ってペンを走らせた次第です。ふるえて来ました。



人生いろいろ パート2 (31)

赤い糸

五年間、私の本棚で眠っていた紀野一義作「心が疲れたとき読む本」は、私の心を癒してくれる大切な本となりました。

パーキンソン病の療養生活に失意と混乱の中、家内より一冊の本を手渡されました。それが、「心が疲れたとき読む本」でした。最初私は、パーキンソン病関係の本を手当たり次第買い求め、読み耽りましたが、読めば読むほど悲観にくれる重々しさで、その時以来一切の本を読む気を無くしました。

それが最近、支部長丹羽氏から感化を受けました。丹羽氏の真摯な人柄と読書人として の博識は、良書の読破によって蓄積され、頂いた一言が、再び本を読むきっかけになりま した。

今にして思えば、なぜその時、妻がこの本を買ってくれたのか。

なぜその時、手の届く所に置いてあったのか。

なぜその時、丹羽氏との出会いがあったのか。

結局、多くの心ある人達から不思議な赤い糸で導かれているように思います。

この本は、人生の生き様に必要な良書として大切にしたいと思います。

文中、序章 「心疲れた人よ」の中で紹介された、坂村真民さんの詩にことよせて、私 は、はじめて詩の美しさと厳しさに心洗われる思いがしました。

森羅万象 すべて大自然の中で生かされている。この雄大な心の詩となり、どんな辛い ことがあっても希望を失わず、夢をなくさず、悲しみは胸の深いところに湛えていきてゆ こうとの教えに感銘を受けました。

「肩ヒジハラズニ プラス思考」この気持ちで生きていこうと思います。

この本を選んでくれた妻と、本を読むきっかけを頂いた丹羽氏に心より感謝申し上げます。

これからも、赤い糸を大切にしていきたいと思います。

加藤基雄

こんなに原稿が集まりました。

感謝·感激

中島陽太郎

編集作業が進むにつれて私の胸に大きな喜びと楽しみが湧き上がってきた。 内容で言えばまさに表題そのもの「人生いろいろ」を体験された方々の手記を 読むことができる。筆者の年齢は30代から70代までも網羅している。職業 も元高等学校の校長・家庭の主婦・元国家公務員・中小企業の専務・元船乗り等 各方面に亘っている。お住まいも愛知県は言うまでもなく石川県や岐阜県・三 重県まである。自宅にお住まいの方、養護老人ホームにお住まいの方・入院治 療中の方、実にさまざまである。介護をしている娘さんの手記もある。原稿を お送りいただいた皆さん、有難う。有難う。本当に有難う、

これらの手記は一度しかない人生をどのように生きてきたのか、生きているのか、生きていこうとしてるかと言う観点で読まれると得るところが大きい。「人生二度なし」だからこそ読む人達に考える機会を与え、勇気と希望を与えてくれるのだと思う。

四国に私の大好きな坂村真民という詩人が住んでいらっしゃる。彼の詩集の中に二度とない人生だからという詩がある。確か京都の南禅寺には『念ずれば花開く』と刻んだ石碑がある。

こういう私自身、知らぬ間に左足を引きずっているのを指摘され暗い気持ちになった

18年前ホームドクターから紹介状を書いていただいた。国立名古屋病院の医者から『パーキンソン病です。』と診断されても事の重大さは十分理解できなかった。しかし今までは何の努力せずにできたことが(たとえばスリッパを履く)すごく努力しなければ履けなくなって来た。こんな時に友の会のあることを知り入会手続きをした。先輩の皆さんのお陰で、かなり性格が変わってきたように思える。

自分より病状が進んでいる人も自立を目指してがんばっている様子を目にしてまだまだ自分でやれる、自立しなくては、努力しなくてはと思っている昨今である。

交遊会に参加して

名古屋市 太田浩子

6月4日(水曜日) 於:東山動植物園

暑からず寒からず、薄曇の行楽日和・・・曇っているのに行楽日和だって?そうです。

今日の戸外は、きつい日差しと比べて、なんと言う過ごしやすい天気でしょう。付き添いの方を含め、30名以上の参加者を得て、私たちは朝からルンルン気分なのでした。

早速、レクチャールームでお勉強。東山動物園の紹介の映画は谷啓の柔らかい語り口で 15 分、時間を忘れさせてくれました。1部の人には絶好の睡眠薬代わりにも。

その後、園の職員の方から、動物、植物についてそれぞれ造詣の深いお話をうかがうことが出来ました。癒しのガーデニングということで、「菩提樹」や「沙羅の木」など実物を手にとって見せていただく機会にも恵まれました。 「幸せのワルツ」という「星影のワルツ」の替え歌をみなで歌い、幸せな気分になったところで、エ?もう昼食の時刻。

ホールを出て、移動しながら、園内を見渡してみると、昼食にはまだ早い時刻のはずが、あちらにもこちらにも、お弁当を広げて談笑しているグループばかりです。そうです。ここにきたら何はさておき、さわやかな風に吹かれての昼食と談笑です。持参したお弁当を広げる人、売店で助六やおでんなどを買い求める人、私達も早速、なるべく一緒になって昼食会の始まりです。食べながら話すということは、心の垣根を低くすること、そんな気分を満喫したひと時でした。

その後、自由に園内を見学する人、お話の続きに余念のない人、それぞれの時間 を過ごし 13:00 分から座談会です。

テーマは「最近うれしかったこと」「悲しかったこと」。一人2分の時間制限あり、則竹さんのポーカー笛いすで、駄洒落を連発し、「はい、ちょうど2分でした。」などという、歯切れの良い名司会振りに乗せられて、皆さん、最近の喜びや悲しみを披露することとなりました。「うれしかったこと」ではパーキンソン病友の会に参加し、皆と親しくなれたこと、参加者が増えてきていることなどを挙げた人が多かったのが印象的でした。結婚や孫の誕生など、家族の祝い事も無論ですが、積極的に自分から、喜びを見つけていこうとする姿勢が周りの雰囲気を明るくしているのだと実感しました。

時間はあっという間に過ぎ、支部長の挨拶で解散になりましたが、最後に印象深かった点を2つ。

蟹 江 さん の 参 加 : 80 歳を超えていらっしゃる蟹江さんは車椅子

を押して参加。

ころころと車椅子を杖の代わりに一人で歩いていらっしゃいました。その**健**在振りと、意欲は私たちの目標、希望の星です。

付き添いの方の参加:ご自身は健常者でありながら、家族の1員、

として、あるいは友人として、ヘルパーさんとして、立場はそれぞれ異なっても、 皆さん、会のメンバーに良く溶け込み、援助してくださいました。ありがとうござ いました。

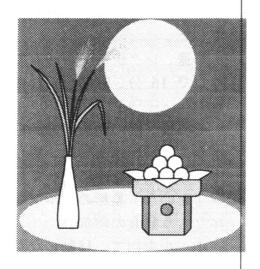
《幸せワルツ》

- 1 一度限りの人生だ 大事にしようよ この命 みんなで幸せのワルツを唄おう。 この世で生まれた 幸せを この世で生まれた 幸せを 明るく楽しく 生きようよ
- 2 悲しいときには ともに泣き 嬉しいときには 分け合って みんなで幸せの ワルツを唄おう 仲良く行こうよ 人生は 仲良く行こうよ 人生は

生きられぬ。

3 夜空に星が 降るように みんな 夢がわく この手でつかもう 幸せを この手でつかもう 幸せを 花咲き匂う 幸せを

一人ぼっちじゃ





全国パーキンソン病友の会

第二七回総会および大会報告

刈谷市 加藤基雄

六月七日八日の両日、石川県金沢市において開催された第二七回総会および大会に 愛知支部から役員四名が参加した。(丹羽・加藤・肥後・伊藤)

金沢は藩祖前田利家が加賀百万石の礎を築いた四百年の歴史を持つ城下町である。 そしてその歴史の中で文化と人材を育て繁栄をもたらしてきたなるほどと感じる風格や伝統の重さがある。そのような土地、風土の中で育った役員さん、家族、ボランテアの方々に温かく迎えられて総会に出席した。会場は金沢グランドホテル、会長挨拶は先ず全国からの多数参加と地元の協力に謝意を伝えられ次に二〇〇三年度の国家予算の成立により国の難病対策縮小に歯止めがかけられた旨報告があり、尚一層の支援と協力が必要であるとの要請があった。難病対策に歯止めがかかるまでの過程を考えると我々会員一人一人が会のために何らかの形で携わりそれを推進していくことは大切なことだと思う。

引き続いて昨年度の活動報告、決算報告、また二〇〇三年度の活動方針案、予算案などが審議されたが、いずれの課題に対しても代議員からの熱心な意見質問があった。これからの課題として役員の責任分担および事務局の体制に万全を期し、「友の会ナショナルセンター」としての信頼を得、山積する諸案件を解決できる体制を整えるとの決意表明がされた。

今総会で喜ばしいことがあった。それは地元石川県支部が第三十八番目の全国パーキンソン病友の会に加入し全員の拍手によって承認されたことである。まだ未加入の県が九県ある。一日も早く加入を達成し、四七都道府県が手を携えてパーキンソン病友の会の活動の場を広げていきたいものである。会長からも期待の表明があった。

二日目会場は石川県文教会館であった。午前中は分科会が開かれた。各会場とも熱気溢れる状況だった。午後、全国大会が開かれた大ホールでのオープニングは石川県婦人部の美しいコーラスで始まった。

記念講演は池辺史生氏の「介護」と、金沢大学駒井清暢先生の「医療」についての話だった。経験に基づいての話に引き込まれるように聞き入っていたが途中気分が悪くなり中座してしまったことはまことに残念だった。いずれにしてもこれからの老齢社会とその環境の中で増えるであろう各種の病気と医療、それに伴う必要欠くべからざる介護についての講演はこの大会を結ぶにふさわしいものであった。

大会アピールが満場一致で採択され二日間にわたる日程はすべて終わった。会のます ますの発展を祈ってやまない。

若年性部会

肥後ひとみ

6月7・8日と金沢の全国大会に出席してきました。

若年性部会として狭い部屋に会員・付き添い・代理人・医療関係者・ボランティア・ 非会員と総勢約 40 人と大勢集まりました。

予定より多くの方が参加され部屋に入りけれないほどの活気ある部会になりました。 最初に自己紹介をし、各支部での若年性部会の活動報告をしましたが、各支部まだ 出来たばかりの所が多くあまり活動している所はありませんでした。

これからの若年性部会としてどの様な活動をしていくのか?と言う議題で話し合いまずは名簿を作成しようと決まり、記載してよい方だけの名簿を作ることに決定しました。

来年の全国大会は福岡で行われテーマの一つとして若年性の問題を取り上げるので 全国の若年性部会のみなさんに協力して頂きたいと呼びかけ終わりました。

会議の後20数名で昼食会を開き楽しいひと時をすごしました。

同じ病気、同じ年代の方達ばかりで近況報告、困っていることなど食事をしながら 話し合いいろいろ勉強になりました。

そして最後に「来年福岡で会いましょう、それまでお元気で」と言い合い各自別れました。



前号でこのページを書いて頂いた加藤 紀幸さんの手術が大成功に終わりました。 術後約2週間経ってお見舞いに行き、加藤さんの元気な姿を見て、安心するとともに 何か感動してしまい、涙が出てしまいました。

加藤さんの少しでも可能性があれば諦めないと言う信念を少しでも見習らわければ いけないと思いました。

加藤さんあせらずゆっくり治して下さい。若年性部会に出席出来るまでみんなで 待っています。

30代・40代・50代の若年性患者のみなさん!!

一人で悩んでいませんか?家の中に閉じこもっていませんか?みんなで楽しくお話しませんか?

是非一度参加してください。

問い合わせは下記まで 若年性部会 肥後 ひとみ TEL 052-604-2198



迄お願いします。

っ 終いの棲家を考える

有料老人ホーム訪問記

中島 陽太郎

花冷えのする4月の中旬、有料老人ホームの[ベネッセ・くらら久屋公園]を丹羽・肥後、中島の3人が参観させていただいた。目指すホームは地下鉄矢場町駅・4番出口からも、上前津駅1番出口からも徒歩約5分のところにあった。蘭の館のすぐ南である。建物は鉄筋・鉄骨4階建・地下1階であるが冷たさを感じさせない。内装に木材が多く用いられているからだろうか。1階の面積の半分近くにクリニックが入っていて、そこと提携している。健康管理は安心だ。 お客様相談室長、吉村仁志さんの出迎えをうけた。実際のお年より若くみえるが、福祉に賭ける情熱に溢れて、なかなか見識がある方であった。お客様相談室でこの老人ホームについて概略の説明を受けた。参観後もう一度この部屋で質問にお答えいただいた。

充実している施設・設備

Q:この施設の定員はどうですか?また主な施設にはどのようなものがありますか?・

A:54室(54名)です。個人の自由、尊厳、プライバシーの尊重、のため全室個室です。全室介護用居室(個室)の面積は平均約13.73㎡(トイレ・洗面を除く。)温水洗浄機能つきトイレ、洗面、ナースコール、クローゼット、冷暖房設備、介護用電動ベッドが完備されています。

共用設備としてはフロアごとのリビングルーム兼食堂 、中・小浴場、トイレ、洗濯室、医務室、その他となっています。

筆者注※特別養護老人ホームなどの公立の施設は4人の相部屋が常識になっていたが、それを完全個室化する動きが急速に進み厚生労働省では2002年度以降新設されるホームは個室化など居住福祉型を基本とする方針を決めた。つまり「処遇・収容の場」から「住まい」にする方針としたのです。

1997年の調査では全国の特別老人ホームの定員総数約25万人に占める個室の割合は8・1%、相部屋ではプライバシーが守られないなど個室化を求める声が福祉関係者の間で広がっている。

第二の自宅と思えるような生活を!

Q: どんなことに一番力を入れてホームを運営していらっしゃいますか?

A :この施設の介護に対する基本的な考え方は第二の自宅となるよう心がけている。 職員も家族のように介護や生活全体を見守っています。入浴は週3回あります。食 事はご飯かパンを選べます。いろいろの行事への参加は本人の希望に従っています。 プログラムは家族の要望を取り入れながら作っています。職員は25人います。

Q:人間関係がなかなか難しいと思いますがその点はどうですか。

A: 気の合う方々と少人数のグループを編成して生活していただいまちほう呆症の 方専用のグループも用意してあります。

筆者注 ※ 介護方法ではユニットケアの導入が進んでいる。特別護老人ホームや老人保健施設、療養型病床群等で高齢者を10人程度のグループに分けてそれを生活の単位(ユニット)として介護を行う方法である。施設介護はこれまで30人から50人程度の大人数を、20人程度の介護スタッフが集団的に流れ作業のようにみてきました。それを小さなユニットにして固定したスタッフガ対応することで個別の高齢者に応じた介護ができる。痴呆高齢者のグループホームなどの実践から生まれたケアの仕方が広がりつつあります。

費用は一体いくらかかるのですか。

Q:介護保険は利用できますか。

A:はい、利用できます。介護保険適用の場合、月額負担見込みは 31万円台 38万円台です。介護保険が適用されない場合は介護費用は全額入居者が負担することになっている。いろいろなケースがあるのでご相談ください。

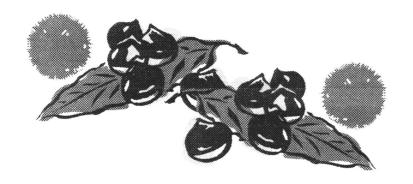
筆者注※①期間設定型契約 (原則 満 65 歳以上) 保証金として 100 万円

②入居金型契約(満75歳以上)入居金として718万円費用は施設によって違います。 有料老人ホームについては支部だより10号にも少し書いておきましたがもう少し近況を書きます。有料老人ホームは民間が経営する高齢者施設です。経営主体は株式会社、財団法人、宗教法人から個人まで多様です。高齢者が民間事業者と契約してサービスを受ける施設のことです。従来高額の入居1時金を支払うというイメージが強かったが介護保険適用による低価格の施設が増えてきました。2001年7月には日本全国で400施設、定員総数41582人です。入居率は7割程度です。

身体拘束ゼロ作戦とは何か。

Q:お年寄りをベッドに紐で縛っていないか。柵を着けて寝かせていないか。部屋に 鍵をかけていないか。薬で寝かせていないか 車椅子にベルトで縛っていないか。 A: してない。

筆者注※高齢者を介護する時、ベッドなどに縛る身体拘束は、介護保険では緊急の場合などを除いて禁止されました。人間の尊厳を守り、拘束をなくそうと厚生労働省が2000年6月から身体拘束0作戦推進会議を発足させました。都道府県でも同様の作戦会議と身体相談窓口を設けるように求めています。



事務局だより

みなさん、10月25日の**医療講演会**の申し込み済みましたか? はがきを書くのが困難な方、ポストまで行くのがちょっと、と言う方 はがきを出し忘れた方、まだ少し席に余裕があります。

電話で受け行けますので下記の日時に電話して下さい。

(日時厳守でお願いします)

期間 9月5日~15日

電話 0562-32-4590

事務局 肥後 まで



10月の医療講演会の後はみなさん楽しみにされている方も多いと思いますが、一泊旅行の速報です。

今年は 11 月の初旬で気候的に一番良い時期になったと思います。 場所は今のところ三重県方面で温泉のある所を予定しております。 日にちは土日を予定していますが平日になるかもしれません。

(どうしても土日は満室になってしまいますので)

足の不自由な方も車椅子で参加できる所ですので遠慮なさらず参加して

下さい。症状の軽い者がお世話したいと思います。

みなさん、大勢の参加をお待ちしています。

決まり次第 PNG 愛知 速報版でお知らせします。 もうしばらくお待ちください!!



全国パーキンソン病友の会愛知県支部

支部長 丹羽 浩介著

「もうパーキンソン病と呼ばないで」

一冊 1200 円 絶賛発売中

申し込みは下記へ

〒475-0837 半田市有楽町 7-148-1 (有)一粒社 TEL0569-21-2130 (土日・祝祭日 休日) **料金は郵便振込みで 口座番号 00810-6-91525** 入金確認後翌日発送します。

服部神経内科・本町クリニック

院長 服部 達哉 副院長 服部 **優**子 〒460-0008 名古屋市中区栄 3-20-28

TEL 052-249-0101

診療時間 午前9:00~12:30 午後3:00~6:30

休診日 木曜日 日曜日 祝祭日 土曜日は午後休診

雜記帳

- ◆ 6月4日東山動植物園での一日交遊会、たくさんの方に参加頂きありがとうございました。あいにくの曇り空でしたが楽しいひと時を過ごせたと思います。
- ◆ 11月に一泊旅行を予定しています。まだ詳しくはお知らせできませんが・・・ 三重県方面になると思います。

決まり次第「PNG愛知 速報版」でお知らせいたします 大勢の方の参加お待ちしております。

- ◆ みなさん、「特定疾患医療給付の継続申請」の手続き終わりましたか?9月30日までです。書類を揃えないといけません。早めに申請しましょう!!
- ◆ この号が出る頃は残暑が厳しい頃だと思います。 みなさん水分不足にご注意を!!

肥後

1971年8月7日第3種郵便物許可(毎月1日、6の日発行) 2003年8月21日発行 SSKA 通巻 第4611号 発行人 特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会 TEL 03-3416-1698 FAX 03-3416-3129

編集人 全国パーキンソン病友の会愛知県支部 丹羽 浩介

TEL • FAX 0562-32-4518 (4590)

〒477-0031 東海市大田町上浜田 61-4-615

郵便振替口座 00830-2-50411

加入者 全国パーキンソン病友の会愛知県支部

頒布価格 1000 円